

——血の繋がらない親の間をリレーされ、四回も名字が変わった高
校生の森宮優子は、「浜坂君」の勧めで球技大会の実行委員をつと
めた。その後、「浜坂君」は……

「俺、告白するのやめとくわ。」とついでのように言った。
「え?」「森宮に告白するって意気込んでたけど、やめにす
る。」「そうなんだ……。」「別に告白されるのを心待ちにしてい
たわけではないけど、そう言われると拍子「Ⅰ」する。
一緒に実行委員をしている間に、たいしたことのないやつだ
と判定されたのだろうかと気にもなった。

「いいところ見せられなかったし。」^① どうしてか聞こうとし
た私に、浜坂君が言った。

「いいところ?」「そう。ドッジボール、俺の二組Bチーム
最下位だろう。」「ああ、確かに。」「森宮のチームは優勝だっ
たのにな。」「私は何もしてないけどね。っていうか、いいと
ころ見せるって、まさかドッジボールで勝つことだったの?」

「まあ、そうなるだろうな。」「浜坂君は、すすいとトンボ
を動かしながら言った。

「Ⅱ」がいいところだなんて違う気はするけれど、だか
らと言って、何を見せられたら好きになったのかというたわ
からない。そんなことを考えながら、器用に土を均す浜坂君
の横で、ずるずるトンボを引いていると、

「でも、また実行委員とかさ、一緒にやろうぜ。森宮とやる
のって楽しいし。」と浜坂君が声の調子を上げて言った。

「私、あんまり得意じゃないんだけど。みんなの前に立つた
り、まとめたりするのって。」「俺も。」「うそ。浜坂君はお調
子者だから、……。いや、その、元気だから、向いていると思う
よ。」

「時々思うけどさ。」「何?」「森宮って、ちよくちよく言葉
の選び方間違えるよな。」「浜坂君はけらけらと笑った。

「いや、父の影響で……。あ、でも、Ⅲ」って、明る
くっていいってことだよ。ほめ言葉だよ、たぶん。」^③ それは
きつと毎晩、(今の父親の) 森宮さんと話してるせいだ。私は
必死で言い訳をした。

「お調子者だけど、俺小心者だから。」「そうかな?」「そう
だよ。だから、こうしてトンボ引いてる。」

「そっか。うん。私もトンボ引く係ならまたやってもいいか
な。」「トンボ引く実行委員なんてないから。森宮って、とぼ
けるよな。」「浜坂君はまた笑った。

「いや、これも父の影響で……。」「と言いかけて、「頭はいい
んだ。」と常々主張している森宮さんを思い出した。
だとしたら、とぼけているのは、どの親の影響だろう。そう
考えると、私もなんだかおかしくなって笑えてきた。

問1 「Ⅰ」に入ることはとして、最も適当なものを次から選び、記
号を○で囲め。

- ア 取り イ 抜け ウ 掛け

問2 ——線部①について、何の理由を「聞こうとした」のか。文中
のことばを使って答えよ。

理由

問3 ——線部②について、「すすいと」「は、どんな様子をいったも
のか。文中から抜き出す形で七字で答えよ。また、「すすいと」
と対極的な表現を文中から抜き出して四字で答えよ。

▽どんな様子
||
▽対極的な表現 ||

問4 「Ⅱ」に入る、「勝つこと」の意になる漢字二字のことばを答えよ。

問5 「Ⅲ」には、「選び方」を「間違え」たことばが入る。そのこと
ばを文中から抜き出して答えよ。

問6 ——線部③が指す事柄を具体的に答えよ。

問7 「四回も名字が変わった」という「私」の境遇がうかがわれる部
分を文中から一五字程度で抜き出し、最初の七字を答えよ。

※語注

*トンボ：T字型の整地用具。

※作者紹介

瀬尾まいこ(せお まいこ)

一九七四(昭49)年。大阪府生まれ。
中学校で国語を教えながら執筆を行
い、二〇〇一年『卵の緒』で坊っちゃん
文学賞大賞を受賞。二〇一九年『そ
して、バトンは渡された』で第一六回
本屋大賞受賞。ほかに『図書館の神様』
『戸村飯店青春100連発』などがある。

